地域の宝っ子に願う“健やかな成長”

子育て環境の変化に的確な対応を

大分県ＰＴＡ
はぐくく美
発行所
大分市大字下郡496-38
大分県教育会館2F
大分県ＰＴＡ連合会
☎(097)556-9055
責任者
疋田啓二
印刷所
大分市下郡3154の22
九州凸版印刷株式会社
http://www.oita-pta.com/

私たちができることを

県Ｐ連は、地域の宝である子どもたちのために様々な活動を行っている。県Ｐ連会長として２年目を迎え、精力的に活動に取り組んできた疋田会長に、会長としての思いや課題について聞いた。

知ってほしい

PTAとは

ＰＴＡは、保護者(Ｐ)と教職員(Ｔ)で組織(Ａ)された社会教育団体。大分県の会員数は今年度、７９０９９名。

子どもたちの健全育成と生活環境、教育環境の改善を目的に各学校単位で活動が行われている。ＰＴＡという組織を介して、保護者と教職員、地域をつなぎ、お互いの交流を深めることで情報を共有。子どもたちを保護者・学校・地域で育てていく協力関係を築く。多くの人に見守られている環境のなかで、子どもたちの育成が支えられているという意識を持ってもらいたい。

安心・安全

登下校時の見守り、通学路の整備・確保、学習サポート、自転車教室など、各小中学校で特色ある素晴らしい活動が行われている。しかし、事件や事故に子どもが巻き込まれていることも少なくない。近年の道路交通法の改正により、子どもたちが加害者になる事例も多く報告されている。14歳以下の子どもの責任は基本的に保護者の責任。多額の費用負担になる事例もある。

いざという時のために、子どもたちの補償制度が充実していることを知って欲しい。学校での事故は日本スポーツ振興センターで対応、ＰＴＡ行事中の事故は県Ｐ連の安全補償制度で対応している。県Ｐ連では、自転車事故で子どもが加害者になる場合に備えた子どもの自転車保険とケガや病気による保険を充実。また、自転車事故で亡くなった子どもたちの内の約80％は頭部傷が原因。ヘルメットの着用を家庭で義務づけて欲しい。

学校教育

―学校教育の変化

小学校からの外国語科授業の導入や土曜日授業、夏・冬休みの授業化、地域を巻き込んだコミュニティスクールの導入。さらには教職員の定数改善。そして、人工知能によるロボット化教育？など。

―大学入試制度変更

センター試験は、平成32年の実施を最後に廃止され新しいテストを導入することが文部科学省から発表されている。「思考力・判断力・表現力」を中心とした学力評価へ。

変化への情報共有・提供を図りスムーズな対応を目指す支援態勢を学校と共につくる。

ネットモラル

情報社会になり、子どもたちは与えられたゲーム機・スマホ・パソコンなどから様々な情報を素早く知ることができる。保護者よりも子どもの方が容易に操作し使いこなしている。学校やＰＴＡでルール作りや講習会などが行われているが、家庭での教育も必要。出会い系サイトやＳＮＳを介した事件に巻き込まれる子どもたちの低年齢化が気になる。買い与えた責任は保護者にあることを忘れないで欲しい。

防災対策

東日本大震災後、各小中学校で防災マニュアルの見直しがすすんでいる。昨年起きた熊本・大分地震を経験したことで災害はより身近なものとなった。学校だけでなく各家庭でも、日頃から「自分の命は自分で守る」という意識と防災に対する知識を積み重ねていくことが大切。

PTA活動の意味

各小中学校のＰＴＡの在り方や運営等について課題はあると思うが、活動のすべてには「子どもたちのために」という考えが根底にあることを忘れないで欲しい。ＰＴＡの会員である保護者同士、教職員が情報を共有し支えあう関係を築くことは意味がある。

ＰＴＡ活動は生涯学習の第一歩、大人の成長の場でもある。研修会や活動を通じて交流を深め、見聞を広めることは決して無駄ではない。子どもたちを取り巻く環境が変化するなかで、素早く的確に対応していくには家庭でともに過ごす保護者の力が大きい。家庭での教育がますます必要とされる時代、ＰＴＡ活動をその糧のひとつと捉え、楽しく取り組んでいただきたい。

一年を振り返って

県Ｐ連副会長
学校教育部長
横松　寛二

今年、学校教育部会は「全単位ＰＴＡ会長研修会」と県教委との「教育問題懇談会」の２つの事業を行いました。会長研修会は、県下全ての単位ＰＴＡ会長が一堂に会し、資質の向上を図りました。また、昨年から取り組んできたＰＴＡの手引きとなる冊子も完成し、皆様にお配りすることができました。教育問題懇談会も県教委と入念なやり取りを行い、中身の濃い意見交換を交わせました。

残りの任期もわずかですが、子どもたちのために最後まで頑張りたいと思っております。

県Ｐ連副会長
家庭教育部長
分藤　貴弘

大分県ＰＴＡ連合会の副会長として、家庭教育部会の部長を２年間務めさせていただきました。たくさんの気づきや学ぶ機会をいただき感謝の想いでいっぱいです。子どもたちの教育環境の中で家庭教育がいかに大切かを保護者に伝えていく重要さも併せて実感させられました。

私たち保護者が地域の中でどうリーダーシップをとれば、「街づくり」に家庭教育が寄与できるかを真剣に考える部会として、これからも努力し、最後まで謙虚に取り組んでいきたいと思います。

県Ｐ連副会長
母親部長
伊藤みどり

今年度は「アナウンス」と「防災」の２つのセミナーを計画、実施しました。アナウンスセミナーは、発声から原稿の作り方までを学び、大変ためになる講習会となりました。防災セミナーでは、いざという時ではなく普段からできる防災の準備を、母親の目線に立って教えていただきました。

この一年間母親部会で集まる回数は４回でしたが、子ども達の為にＰＴＡ活動を各郡市Ｐでリードしている仲間と繋がり共に学び合えたことは、自分自身を高める素晴らしい経験になり宝となりました。

第40回 大分県PTA 広報紙コンクール

１年間の成果をお待ちしています

締　切　平成29年３月24日㈮
審査日　平成29年４月５日㈬
表彰式　平成29年４月18日㈫

※応募対象※
県下の小・中・特別支援学校PTAで３回以上定期発行した広報紙。(号外を除く)〈平成28年４月から平成29年３月発行分〉審査部門は小学校と中学校の２部門とする。

「第40回大分県PTA広報紙コンクール出品についてのお願い」は各郡市PTA連合会事務局を通し単位PTAに送付しています。

研北寸心

▲擱筆の辞。研北寸心と題して本紙２９９号（平成19年5月16日刊）に起筆して丁度10年。過分な推挙を受けた時、特別な苦情文句がなければ10年間は連載しようと決心した。毎回、保護者、教職員向けに、時には自分に思いの丈を記述して参りました。文字通りの寸心でしたが如何でしたか。ご愛読に心より感謝です▲改めて初回文を読むと、文明の利器の発達は人間本来の手足の力が退化する。手工こそ日本文化の礎だ――と説いてある。この主張は、10年経った今も不変です。むしろ一層強くなった今日です。よって80歳になった今も老化防止と思って執筆（書道）を続けています▲私は、定年退職して20年目になりますが、「第２の人生」なんて思ったことは１度もありません。一生の中で38年間教職に在ったということだけです。40歳前に「心身如花」と自戒の為に造語。80年の人生を元気に歩いています。60歳以後、70歳代の自分の人生計画案を以っての消光の日々です。今も現職時のような仕事に携わり乍ら生きられる幸せは、40代からの10年刻みの計画を実践してきたお陰です。もとより自力だけではなく他力の賜で、唯々感謝です▲分相応とか分際は知っているつもりです。心身如花を標榜した以上、書道人としてひたすら「心手双暢」（書譜）を心懸けて傘寿に辿り着きました。単なる字書きで終わりたくないので、無病息災を胸中に、１００歳を目指します▲最後にロシアの文豪ゴーリキーの言葉を記します。「すべてのものごとには終わりがある。したがって、忍耐は成功をかちうる一つの手段である」

中津地区　豊後高田大会

豊かな子どもを育む

第25回大分県ＰＴＡ研究大会　中津地区　豊後高田大会

1月29日(日)に開催され、県下より関係者約500名が参加。「地域・学校・家庭のつながりで心豊かな子どもを育むＰＴＡ活動」を研究主題に「教育の町より発信　手をつなごう　家庭の和　地域の和」の大会スローガンのもと、豊後高田市中央公民館をメイン会場に行われた。午前の全体会に続き、午後は各会場に分かれて活発な討議が行われた。

全体会

小山隆宏豊後高田市Ｐ連会長の開会宣言に続き、田崎善範大会実行委員長による「豊後高田市の『昭和の町』は『教育の町』である。今日は、親子のつながりの大切さをこの町から発信する。会員の皆様は、再確認をする場として欲しい」とあいさつがあった。

引き続き、疋田啓二県Ｐ連会長が、「昨年は寒波の影響によって大会が中止となり、2年振りの県Ｐ大会開催となった。熊本・大分地震では、全国のＰＴＡより1500万円もの義援金が寄せられた。1日でも早い復興と子どもたちの心のケアを共に行っていきたい。また、現在の課題・今後の変化していく教育問題に対し、日頃より学校や教育委員会と密な活動を行っていただき、子どもの育成・安心・安全に結びつけていくと共に本日の大会では実りある討議を期待している。今後の子どもたちの健やかな成長と活発な活動を祈念する」と述べた。

また、広瀬勝貞大分県知事は、「大分県の子どもたちの学力や体力が向上している背景には学校の教職員はもちろん、ＰＴＡ会員の方々の協力があってのものであり、深く感謝申し上げる。子どもたちには知・徳・体の力をつけて、将来の自分の目標にすすんでもらいたい。これからも子どもたちの学力・体力向上のために、県としてもしっかり務めていきたい。」と祝辞を述べた。

祝辞を述べる広瀬県知事

最後に大分県ＰＴＡ連合会旗が、分藤貴弘大分市ＰＴＡ連合会長へ渡された。平成29年度は、九州ブロック研究大会おおいた大会を兼ねての開催となる。大会実行委員長として、「九州各地より、8000名の会員が集う。大会成功のため共にがんばりましょう」と会場の会員にエールを送った。

第1分科会　家庭教育　親子の対話で家族をつなぐ

「家庭の和を強め、親と子がともに育つＰＴＡ活動のあり方」をテーマに約100名が参加し討議。

子どもの声に耳を傾け

加藤太輔別府市立朝日小学校Ｐ副会長は「読書でつなぐ親と子の絆」と題し発表。

「親も子もゆとりがない生活の中で、親子のコミュニケーションが取りづらくなっている。親子で家読書を通じてお互いの存在を感じ、絆を深めることができるのではないかと取組を始めた。具体的な活動として、年に3回1ヶ月間、週に3日10分以上の読書を親子で行う。結果として、家族の会話が増え父親と過ごす時間が増えた。子どもの『読む・聴くチカラ』がつき集中力が増した。この活動を継続して行うために、学校と更に連携を取り、保護者に読み聞かせ・読書の大切さを伝えていく」と報告。

熱く指導助言する山本校長

弾む会話　弾む笑顔

次に、**小野晴基佐伯市立直川中学校Ｐ会長**が「見直そう！　親子の対話の大切さ」と題し発表。「毎年県Ｐ連より募集がある三行詩に生徒とＰＴＡ会員全員が応募し、親子の会話を増やす取組を行った。40世帯中、37世帯が参加し、『当初は面倒だったが、親子で話し合って作品を作ることによって楽しい時間が過ごせた』ととても好評だった。また、毎月著名人の格言を校長先生が提示し、それについて親子で話し合う取組も行っている」と報告。

会場からも親子の対話を増やす取組について活発な意見が交わされた。

山本哲也豊後高田市立河内中学校校長は、朝日小学校に対して「学年に合わせた時間設定があれば取組に幅ができ、目標設定を下げることによって子どもたちの達成感が得られるのではないか。また、地域と連携し活動を行っていくことで、より発展した活動となるのではないか」と話した。

直川中学校に対しては「三行詩の応募で入選し、子どもたちが向上心をもったという結果が生まれた。ＰＴＡ活動が活発に行われることによって子どもが成長するという相乗効果となった。また、活動がマンネリ化せずに継続してできるように次の取組を既に考えているところが素晴らしい。これからは、広報紙を使い地域へ活動をアピールし、地域の方にも参加してもらう取組をすすめることも必要である」と指導助言した。

第2分科会　人権教育　つながりを大切にする心を育む

「地域・学校・家庭が手をつないで、お互いを大切にする人権教育のあり方」をテーマに約100名が参加し討議。

子どもを軸にふれあう活動

阿部直喜津久見市立千怒小学校Ｐ会長は「地域と共に開かれた学校を目指す千怒小ＰＴＡ～子どもがつなぐ地域とのふれあい～」と題し発表。「本校のＰＴＡ活動は親子のふれあいを目的とした活動が多い。そのなかで『家族参観日』は、保護者として気になる話題を取り上げ、親子で一緒に考える機会を持つ。また少子化が進む校区では『千怒小人材バンク』に登録している方の協力でＰＴＡ活動が支えられ地域とつながりを作る取組となっている。今年度20回目の開催となる千怒小夜市は地域の方も参加する定着した行事に。特に保存会の方から指導を受けた津久見扇子踊りでは、『ふるさとを大切に思う気持ち』や『伝統文化を継承する役割を担う自分という存在の大切さ』を学ぶことにつながったのでは」と報告。

ふれあい育つ豊かな心

次に**中川賢一宇佐市立院内中学校Ｐ会長**は「共育～地域・学校・家庭が共に育つＰＴＡ活動～」と題し発表。「本校のＰＴＡ活動は『多くの人と触れ合える』、『地域の活性化』、『感謝の気持ち』の3つの目的がある。『ふれあい体育大会』や、親子で一緒に地域を回る『資源回収』、生徒会主体で地域の方々を招待する『文化行事』、母親部が老人福祉施設でボランティア活動をするなどの交流を通じて、互いの顔を覚え挨拶をする関係を築いてきた。また、人権学習にも力を入れている。学期末ＰＴＡを丸ごと人権学習にあて全ＰＴＡ会員に公開。テーマを設定した学年ごとの学びや全校を対象にした講演会を行った。こうした取組を通じて、悩みを抱えた生徒や保護者が相談しやすい環境を整え、広い世代の交流で互いの成長を促す。このつながりが人としての豊かな成長に必要なのではないか」と報告。

活動を報告する発表者

川野和人県教育庁人権・同和教育課主任社会教育主事兼主幹は、千怒小学校に対して「地域と密着した活動の良い点は、人と触れ合う中で多くの人から見守られているという感覚を芽生えさせること。活動を通して温かさが伝わってきた」と話した。また院内中学校には「他人とのつながりやほめ言葉が自己肯定感を育てることに役立つ。生徒会、ＰＴＡで目的通りに取り組んでいくことで、必要な環境ができている」と指導助言した。

Smile隊

読書に興味を持ってもらうには、まず大人が子どもに本の楽しさを伝えること。その一番の近道は「読み語り」だと思います。今では我が子も社会人となり学校へ行く回数も減りましたが、地域人としてはいつも学校の応援団でありたいと、学校支援ボランティアとして小学校での読み語りをしています。私の担当は六年生。自分で読書を楽しめる高学年の子どもでも、読み語りは一人で読む時とは違った世界観を味わっているように感じます。子どもたちが私の読む本に目を向け耳を傾けてくれる時、それだけでも嬉しくなります。声に出し笑ったり頷いたり、時にはそっぽを向いたり首を傾げたり、その日その時で表情は様々ですが、私自身、大きなパワーをもらっています。そして何より生の声で読み語る時、何かしら子どもたちに伝わっているなあ、子どもたちの心が動いているなあと実感します。だからこそ本の力を信じ、子ども時代に聞いたお話（本）が、自然と子どもたちの心に響き、いつしか心に強く残り、生涯の宝になってくれることを信じているのです。私たちの大切な大切な宝である子どもたちが、ふるさとや人を大切にする大人へと育つよう、微力ながら今後もこの活動を続けていきたいと思っています。

緑の種が芽をふき根を張り、いつの日か大きな強い木に育ってくれることでしょう。

豊後大野市ＰＴＡ連合会
事務局長　甲斐真由美

第25回大分県ＰＴＡ研究大会

ともに手をとり心

第3分科会　健全育成・地域活動
おたがいさまで支え合う協働関係

「地域の和で、児童生徒を育てるＰＴＡ活動のあり方」をテーマに約100名が参加し討議。

親も子も笑顔になる活動

進野浩司大分市立大在西小学校Ｐ会長は「地域・ＰＴＡが協力してすすめる子育てのあり方～すべては子どもたちの笑顔のために～」と題し発表。「歴史の浅い大規模校である本校のＰＴＡ活動は『お互い様』の心がけと、大在地区に根付く『地域の和』によって支えられている。その中で、地域の方たちを講師とした講座を開き家族で受講できる『サンサンカーニバル』は代表的なＰＴＡ行事。事後アンケートの結果などから、幅広い年代の交流が楽しくできる、またやりたいと好評を得ているが、準備に時間がかかるため担当する役員決めに苦労しているという課題もある。継続には、見直しと工夫で時代に沿ったＰＴＡ活動を展開する必要がある」と報告。

発表を聞き入る参加者

討議では、保護者の一児童一役や懇談会での参加状況などについて意見交換を行った。

自主性を育み互いを支える

次に、**川野晃日田市立五馬中学校Ｐ会長**と**河津千麻紀母親部長**は「地域とともに育てる心豊かな五馬っ子」と題し発表。「３つの生活時間『起きる・家庭学習を始める・寝る』時間について、親子に同じ内容のアンケート調査を実施し意見交換を行った。ＳＮＳ使用に関するルールの必要性を感じＰＴＡ主導でルールを作成したが、生徒会でもさらに厳しい使用制限を設けたルール作りを始めていたため、ＰＴＡは生徒たちの考えを尊重し様子を見守ることにした。

小規模校である本校は、学校も地域も互いの協力で成り立っているのが現状。保護者や生徒が地域の伝統存続、活性化に貢献し地域の方の協力が子どもたちの安心・安全を支える。このつながりを大切に協働していきたい」と報告。

討議では、会員数減少によるＰＴＡ活動の対策案などについて意見交換を行った。

宇都宮忠県教育庁社会教育課社会教育主事は、大在西小学校に対して「ＰＴＡは子どもと保護者、地域をつなぐ役割を担う。今後も楽しく活動する機会を作り、人とのふれあいを通して心の豊かな子どもを育成する支援を心がけてほしい」と話した。また五馬中学校には「ＰＴＡが『今必要なのは何か』を考え、すぐに対応できることは素晴らしい。小規模校が抱える課題は多いが、小回りの利く活動ができる良さがある」とそれぞれに対して指導助言した。

第4分科会　教育問題
家庭・学校・地域の強い連携が要

会場を豊後高田市真玉公民館に移し「体験を通して自ら学ぶ力を育むＰＴＡ活動のあり方」をテーマに、約100名が参加し討議。

共に手を携えて

山田俊彦豊後高田市立草地小学校Ｐ会長が「保護者、家庭、地域が一体となって、子どもたちの学ぶ力をどう育んでいったか」と題し発表。「本校は、現在児童数31名の複式学級を要する極小規模校のため、学校と地域が一体となった活動が多い。その中で、学校を離れ豊後高田市を象徴するお寺や神社、文化財を保管している御堂などを掃除する『地域清掃活動』は、地域の人と清掃しながら掃除の仕方や自分が住む地域の歴史を学ぶ。他にも地区と合同で作り上げる『秋季大運動会』などの活動を通じ、子どもたちには地域を大切にし地域の先輩の心を引き継ごうとする姿勢が自然と育っている」と報告。

討議では、児童数増のための対策や地域との連携のための連絡体制、地域への要望などの意見交換が行われた。

良好な関係作りを

続いて、**山本知永子杵築市立宗近中学校Ｐ研修部長**が「子どもたちの体験的な学びを支えるために～学校と家庭の連携を通して～」と題し発表。「昨年から実施している5、6月の7週間に渡って行われる『オープンスクールデイズ』をはじめ、親子で行う『環境整備活動』、年に数回開催される親子で学ぶ講演会は、子どもたちの学びの現状を保護者自身の目で確かめることができ、安心にもつながった。

それは、親子の関係や学校との関係作りにプラスの影響をもたらしたと実感させられ、学校に行く機会が増えた結果の成果である」と報告。

活発な意見交換

討議では、研修会参加の呼びかけをする時の工夫や参加者の反応、ＰＴＡのニーズと学校側のニーズのすり合わせについてなど活発な意見交換が行われた。

奥田悦生豊後高田市立高田小学校校長は、2校の提言について「両校とも三者一体の連携が素晴らしい。しかしコミュニティスクールと学校の違いをしっかりと確認することは重要。この研究発表で発表し意見交換をしたことが自校のＰＴＡ活動の見直しをする良いきっかけになったと思う。ＰＴＡ活動も違う見方をすると今まで見えなかったものが明確に見えてくる」と指導助言した。

記念講演

親と子のこころをつなぐ性教育

「いのち」を伝える応援団
団長　宇留嶋　美弥 氏

子どもの心に寄り添う

「子どもたちは性についてネットや漫画・友人との会話で知っていく。どちらかといえば学校に任せてしまい、保護者と面と向かって話をするという家庭はまだまだ少ない。しかし、子どもたちの成長の段階で話さなければいけない時期にきちんと親子で話をしておくことが結果的に子どもを守ることになる。親が恥ずかしがらずに堂々と話をして欲しい」と講師の宇留嶋さんは話をした。講演の中で、応援団員による演劇があり、男女の成長期の体の変調について親として子どもの心に寄り添った対応の仕方をおもしろおかしく演じた。会場は笑いに包まれ、とても穏やかな雰囲気となった。

『性について明るく話そう』と背中を押してもらった講演会となった。

家族で笑って性教育

うるしま・みや　・助産師　・思春期相談士　・受胎調節実地指導員

1991年	大分県立高田高等学校卒業
1998年	大分県立厚生学院保健助産学科卒業
1998年～	国立別府病院産婦人科に勤務
2005年～	たんぽぽ助産所を宇佐市に開業し、地域の母子保健活動に携わっている。
2010年～	杵築市の宮内ウィメンズクリニックにパートタイム勤務し出産に立ち会っている。
2015年～	「いのち」を伝える応援団を立ち上げ、市内外の各学校へ出向き、子どもたちや保護者への「いのちの授業」や「性教育」の出前授業を行っている

三行詩コンクール 大分県最優秀作品

【小学生の部】　大分市立明治小学校　6年　藤本　茉優

つらいとき　話してないのに　気づいてて
どうしたの？ 大丈夫？ と　心配してくれる
お母さん　いつもありがとう

【中学生の部】　竹田市立久住中学校　1年　中村 日向子

お父さんとケンカした
ずっと無言の　お父さんと私
お父さんの無言のあく手で　元通りになった

【一般の部】　佐伯市立佐伯南中学校ＰＴＡ　疋田　寛子

娘の髪を切っている　パパの顔
私には　見せたことのない　嬉顔
そして　楽しそうに会話する２人　最高の家族!!

共通理解を深める

── 平成28年度　教育問題懇談会 ──

平成28年11月4日㈮に、県教委と県Ｐ連との「教育問題懇談会」を、県庁別館で開催した。懇談会には、県教委から工藤利明教育長他教育次長・関係各課・室から計20名、県Ｐ連から疋田啓二会長他副会長・理事ら計23名が出席した。

各郡市Ｐ連・育友会から出された教育課題を元に行った。今年は、事前に課題について県教委から回答骨子をいただき、当日、意見交換を行い、お互いの理解を深め合った。（以下内容を抜粋して掲示）

①新しいタイプの高等学校の設置・導入について

県全体の適正な学校配置を勘案しながら、普通科・専門高校等選択可能な学校を複数配置するとともに、生徒の学習ニーズに対応するために新しいタイプの高等学校（総合選択制高校・中高一貫教育校等）の設置・導入に努めてきた。

また、進学指導重点校を中心に平日の学習指導の充実や土曜講座の実施等により進学指導体制の強化も図ってきた。

②生徒の進路志望実現を図る教育体制の確立について

平成32年度からの大学改革に対応するための未来を創る学び推進事業を実施するとともに、就職力の向上の取組や生徒の学びの場の充実の取組を全ての高等学校で実施。

③指導教諭の任用・配置について

生徒の「学びに向かう力」と思考力・判断力・表現力を育成する「学びに向かう学校」づくりを推進し、持続的・発展的な授業改善を組織的に実践する要の職として、教科指導力のある指導教諭を県立高校23校に26名配置している。今後は、平成31年度までに、全ての県立高校に配置するよう計画している。

④中学校での学力向上について

組織的な授業改善により「新大分スタンダード」に基づく授業の質の向上を図ったり、家庭学習指導・補充指導の見直し、「中学校学力向上対策3つの提言」の実行など重点的に各中学校において進めている。

⑤30人以下学級の導入及び教職員の適正配置について

文部科学省が示した戦略では、今後10年間で、定数改善が示されている。しかし、平成28年度の概算要求で盛り込まれた定数改善計画（案）が見送られた経緯もあり、今後とも国の動向を注視していきたいと考えている。

また広域人事異動は、全県的な教育水準の維持向上、教職員の意識改革及び若手教職員の人材育成の観点から推進している。

教育長に要望書提出

疋田啓二県Ｐ連会長は、1月16日、工藤利明県教育長に対し、平成29年度における「中学校3年生学力診断テスト」継続実施についての要望書を提出した。

ともにつながり育て合おう！光り輝く地域の宝のために

～ＰＴＡ・協育・こどもの未来～

開催まで あと 238日

分科会　平成29年10月21日㈯
全体会　平成29年10月22日㈰

第62回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会 おおいた大会

分科会	討議題	討議の柱
1	つどいつながり活動するＰＴＡの組織・運営	目的意識を明確に持ち、実践と改善を図るＰＴＡ組織・運営のあり方
2	つどい学ぶ研修・啓発活動	会員の「つどい」を促し、気付き、学びを高めるＰＴＡ活動
3	つどい共感し、協働意識を高めるＰＴＡ活動	つどい情報共有を図り、共感し、協働意識を高めるＰＴＡ活動
4	つどい協働し育む健全育成活動	つどい協働し子どもの健全育成に取り組むＰＴＡ活動
5	相互支援による児童生徒支援・学校支援活動	つながり合い、相互支援による環境改善を図るＰＴＡ活動
6	ともに協育、実践を図る活動	ともに協育、実践を図るＰＴＡ活動
7	ともに協育、実践を図る活動	ともに協育、実践を図るＰＴＡ活動
8	ともに認め合い敬愛し合う活動	ともに認め合い敬愛し合うＰＴＡ活動
9	ネットモラル・メディアリテラシーを正しく身につける活動	「ネットモラル・メディアリテラシー」を高めるＰＴＡ活動
特別	未来につなぐＰＴＡ活動	ＰＴＡの意義を原点に立ち返って考える

全体会記念講演講師	九州アフリカ・ライオン・サファリ株式会社 獣医師　神田　岳委 氏

立ちどまらない保険。
MS&AD 三井住友海上

三井住友海上の安心
GK
www.ms-ins.com

大分県ＰＴＡ連合会
・ＰＴＡ安全補償制度
・「学生・子ども総合保険」

〈取扱代理店〉
はぐく美保険サービス株式会社
大分市大字下郡496-38　TEL097-535-7051

〈連携代理店〉
ＭＳ大分中央株式会社
大分市寿町11番22号　TEL097-537-3700

〈保険にかかるお問い合わせ〉
0120-56-8993（受付時間：月～金　9:00～17:00）

24時間365日事故受付サービス
「三井住友海上事故受付センター」
〈事故受付センター〉
0120-258-189

平成29年度の「学生・子ども総合保険」の募集がはじまりました。
パンフレットをよくご覧になり、コースを選択して加入期間中にご加入ください。

子そだてひとこと

チョコっと

―sweet & bitter―

持ち味にからみ合う「下ごしらえ」

「～むずかしいのは無理だけど、愛情だけはたっぷり込めて。温かいうちに、さあどうぞ。」

先月号の三面、「ゴロゴロおいもケーキ」づくりを紹介した「今月のレシピ」記事に添えられた小文に惹かれた。

レシピには、材料と作り方が示されているが、むずかしい料理には、「下ごしらえ」という手法が加わる。

以前、給食調理員さんから聞いた話を思い出した。

「煮ものは、それぞれの具材ごとに煮て、後から合わせる。」、「炒めものだからといって、材料をすぐに炒めるのではなくて、素材ごとに茹でてから合わせる。」

青くささや酸味、舌触りが個性的な食材は、互いに合わさって、良さが引き立てられる。風味をしっかりからみ合わせる主役は、「下ごしらえ」。

一度食べると病みつきになる料理には、頼りがいがある「下ごしらえ」が控えているのだろう。

多くの人と、「からみ合いながら生きる」子どもの成長にも、持ち味を引き立てる「下ごしらえ」が欠かせない。

「親」という字は、「木の上に立って見る」と言われて久しい。今、子どもが育つ環境が問題視されている。木から下りて、子どもが「からみ合って生きている」現実に目を向けた「下ごしらえ」の中味が問われているように思う。

親も子も慌ただしい朝。せめて朝食だけはしっかりと食べて欲しい。温かいおにぎりにお味噌汁を添えて元気な一日の始まり。難しそうに見えて実はとっても簡単な味噌玉を紹介。冷蔵で1ヶ月、冷凍で3ヶ月は保存可能です。

今月のレシピ

breakfast
lunch
sweets…

味噌玉を作ろう

材料

- 味噌 …… 500g
- 乾燥わかめ …… お好みで
- 切り干し大根 …… お好みで
- 煮干や椎茸等の粉末だし …… 大さじ3程度

①材料を入れて混ぜる
②1人分（大さじ1強）ずつラップで包み完成

食べ方

160ccのお湯で溶く。
濃さはお好みで調整。
他の具を煮て足すと具だくさんのお味噌汁に。

編集後記

▼新しく年輩の友ができ、温故知新が苦境を乗り越える力となった。節となる春を迎え、改めて出逢いに感謝。（T）

▼我が家の約束事。たくさんあるうちの一つ。帰宅時、履物は必ず靴箱へ。玄関まではいついらしても大丈夫。（H）

▼ある雑草の花言葉が輝く心と知って納得。踏まれても立ち上がり花を咲かせる強さに感動…するもため息が。（O）